

# ささやきの市場

そこに集うものすべてが商品である。

## ささやきの市場の特徴

**魂の担保:**ささやきの市場に進入したクリーチャーは1回分の回復力を失い、1回分の回復力使用回数を永久に失う。また、ささやきの市場で回復力使用回数を回復させる大休憩を行ったクリーチャーは1回分の回復力を失い、1回分の回復力使用回数を永久に失う。この効果で回復力使用回数が0以下になったクリーチャーは、死亡して復活する際に“市場の主”から何らかの対価を求められることになる。回復力使用回数が1以上残っているクリーチャーは、ささやきの市場を離れると回復力使用回数の上限が元に戻る。

**地獄の沙汰も金次第:**ささやきの市場で発生した遭遇でクリーチャーが最初に遭遇毎パワーを使用した時、そのクリーチャーは1回分の回復力を失う。また、一日毎パワーを使用したクリーチャーはそのたびに1回分の回復力を失う。

ささやきの市場はさしわたし1マイルもない小さな浮き島が無数に集まり、ほとんどの島が商人たちの集う市場となっている次元界である。島と島の間は橋がかかっていたり、ない場所は小さな空飛ぶはしけで渡るようになってい

無限といえる多元宇宙全体を見ても、ささやきの市場はかなりの規模を誇る市場だ。しかし、これまでの歴史で市場すべてを支配する存在や組織は存在しなかった。少々大きな勢力が出現しても、他の勢力が自然とその頭を潰す繰り返しが続いているのだ。このため、次元界を旅する者の間では常になり上がる機会がある場所としてもとらえられている。

浮き島は表面だけではなくその内部の空洞なども生活の場として利用されている。地下は元来そういう場所に住む種族が自発的に住んでいることもあるが、貧困や採め事が理由で地上にいられなくなった者が逃げ込んだり、ささやきの市場とはいえ地上で大っぴらに売買しづらいものが取引されていることも多い。地下を訪問するなら信頼できる案内人を頼むのが賢明だろう。

## 市場のあるじ

ささやきの市場を創造するのに一役買った謎めいたデヴィル。それがこの次元界の闇に生きる者たちが“市場のあるじ”と呼ぶ存在である。

彼、あるいは彼女は、この次元界の法則を定義することで多くの魂を支配下に置いている。あらゆるものに開かれ、あらゆるものが取引される市場という次元界は、そうした“商品”を仕入れるために作られた表の顔にすぎない。この次元界で長く仕事をしている裏の住人は、おおよそこのような見解を持っている。

事実、この次元界に長く住む者の魂は徐々に消耗し、肉体も脆弱になる。死後に復活を試みても戻らなかった者も多い。“あるじ”を知るものは、こうした事実の後ろにその影を感じて畏怖するのだ。

“市場のあるじ”がどこに住み、どんな姿をしているのか知る者はいない。“あるじ”によって死から復活した、デヴィルやアンデッドとして新たな命を与えられたという者は多いが、彼らは口を揃えて再び目を開く直前に命令をされるのだと話している。

こうして生まれた手駒や豊富な魂を使い、“あるじ”はその資産を増やすための投資を行なっている。二重三重に仕掛けを組み合わせ、諸勢力の反目を煽ることで生まれる嘆きや悲しみ、憎しみを育て、そこにつけ入ることで“あるじ”は力を増すのである。

## 名所

ささやきの市場にあるさまざまな島はほとんどが市場である。その中でも有名な場所をいくつか紹介する。

### 巨人の港

他の島からは少し離れた場所に浮かぶ浮き島。周囲に小島がなく、大きな船も入りやすい良港である。かつてはもっと島が多い場所に浮かんでいたが、港を支配する巨人たちが入港料を稼ぐために現在の位置まで曳いて移動させたことで名高い。次元界を旅するのに必要な船や乗騎なども盛んに取引されている。

### 十六辻の市場

四つ辻を4回かけたほど道が入り組み、それらが交わる広場のすべてで市が開かれているほどに活気がある行商人たちの島。もちろん建ち並ぶ建物の中にも店はあるが、ここではそれ以上にさまざまな次元界から集った店を持たない行商人たちで溢れている。彼らが持ってきたものの中には、思わぬ掘り出しものがあるかもしれない。ごったがえす行商人や客を狙うスリも多い。

### 底抜け島

中心に大きめの空洞があり、ドワーフやノームが多く住む小さな浮き島。不死の源泉とも伝えられる神々の酒から齢千年を越す古き竜の肉まで、あらゆる次元界から食にまつわるものが集まる市場でもある。空洞の底は抜けており、数日にいちどは前後不覚になるまで酔った者がそこから落ちていく。

### 高き者たちの島

ささやきの市場で成功した者たちが建てた屋敷が建ち並ぶ、この次元界にしては珍しい商売の影が薄い島。警備の兵と城壁により、招かれざる客の侵入を防いでいる。そのため、ここの屋敷にもっとも重要な商品をしまう商人たちも多い。

### 宵の宮

常に夜陰に包まれた小島。島はこの闇を生み出した“とぼりの君”と呼ばれるヴァンパイアが支配し、あらゆる娯楽とほんの少しの背徳が提供されている。また、そこで遊ぶ者たちの秘密が売買される場所でもある。